

インフォメーション

春夏製品のご案内



こてっちゃん コク味噌味

こてっちゃんの美味しさのポイントは、クセになるコクと旨みです。3種類の味噌を使った合わせ味噌とローストガーリックを使用したコクの深いたれで仕上げました。



こてっちゃん 旨辛コチジャン味

コク・旨みが特長の「韓国産コチジャン」を使用し、にんにくの旨みと唐辛子の辛みをきかせたコクのある辛さに仕上げました。



新発売

こてっちゃん 塩レモン味

瀬戸内レモンを使用して、すっきりとした酸味と旨みのある味に仕上げました。アスパラガスやパプリカなどの洋風野菜とも相性ピッタリの味付けです。



新発売

極亭(きわみでい) 牛ホルモン鉄板焼き シリーズ

下味付牛もつとたれ、おろしにんにくをセットしました。キャベツもやし玉ねぎなど野菜を加えて炒めるホットプレート調理をご提案する製品です。

新発売

極亭 牛ホルモン鉄板焼き 醤油味



新発売

極亭 牛ホルモン鉄板焼き 味噌味



株主ご優待のお知らせ

株主の皆さまだけにお届けします。

ご優待内容

■2月末の株主さま

- ◎2,000株以上保有の株主さま
「10,000円相当の国産牛肉、または、国産豚肉」
- ◎500~1,999株保有の株主さま「3,000円相当の自社グループ製品」
※上記の国産牛肉(豚肉)および自社製品は11月にお送り致します。

■2月末、8月末の株主さま

- ◎100株以上保有の株主さま一律「当社オリジナルギフト商品を優待価格にて販売」
※6月、11月に対象株主さまにカタログをお送り致します。

国産牛肉(和牛) 弊社が厳選した国産牛肉、豚肉の逸品。注2,000株以上保有



ローズスライス



ローズステーキ

国産豚肉(ゆめの大地)



※写真はイメージです。
料理写真の野菜、仕器等は
ご優待セットには含まれておりません。

会社概要

社名	エスフーズ株式会社 SFoods Inc.(コード番号2292東証1部)
設立	1967年(昭和42年)5月22日
代表者	代表取締役社長 村上真之助
資本金	42億9,835万円
事業内容 (グループ)	食肉等の製造・卸売事業、小売事業、外食事業

株式メモ

■事業年度	3月1日~翌年2月末日
■期末配当金受領株主確定日	2月末日
■中間配当金受領株主確定日	8月31日
■定時株主総会	毎年5月
■株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
■郵送物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 ☎0120-782-031(通話無料)
インターネット ホームページURL	https://www.smb.jp/personal/agency/index.html

(ご注意)

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先へご連絡ください。

【未払いの配当金について】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■上場証券取引所	東京証券取引所
■公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sfoods.co.jp/investor/koukoku.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
■単元株式数	100株

【特別口座の口座管理機関変更に関するご案内】

2016年5月25日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社へ変更いたしました。



エスフーズ株式会社 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13 TEL.0798-43-1065(代表)
http://www.sfoods.co.jp/



SFoods News

2021年2月期

2020年3月1日~2021年2月28日



代表取締役社長
村上 真之助

事業の概況に についてのご報告

当連結会計年度においては、前年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、日本全体が日々の生活や社会・経済の在り方に再考を迫られる変化を経験しました。個人もさることながら、企業においても、多くがその活動を制限されたり、

非常時対応を迫られたりしました。年度終盤になって、国内でのワクチン接種が始まりましたが、事態の安定化にはまだ時間がかかる見通しです。食肉業界においても、緊急事態宣言の2度にわたる発出や、GoToキャンペーンの開始や中断などで、難しい対応を迫られる一年となりました。

このような状況のもと、当社グループは、「魅力あるスタミナ食品をもって世界に貢献する」、「企業の成長発展とともに、生活・文化の向上を図る」という社是に基づき、食品の供給というエッセンス・ネットワークを行う事業者として、食肉商品の安定的供給と事業継続に努めました。

ㄨ 食肉等の製造・卸売事業においては、感染予防のための政府指導や自主規制のため、市民の日常活動や企業経営にたびたび制約がかかる中、お客様に当社の食肉製品を確実にお届けすることを主眼に諸施策を行いました。営業・製造それぞれの現場において、感染防止のための衛生管理を徹底した他、勤務体制の見直し等も行いました。また、消費者志向の変動に合わせて販売チャネルごとの営業促進を強化するとともに、巣ごもりやニューノーマルといった生活様式の変化に対応した新たな製品づくりに取り組みました。

食肉等の小売事業においては、対策本部を設置のうえ、意思決定や情報共有を円滑に図るとともに、地域の方の毎日の生活を支えるという使命のもと、お客様に安全に安心して食品をお買い物いただくことができるよう日々の店舗運営維持に努めてまいりました。

食肉等の外食事業においては、4月に入ってからの緊急事態宣言発出や11月以降の感染再拡大の影響を受け、首都圏や他の大都市圏における多くの店舗が休業や時短営業を余儀なくされる事態となり、当事業を取り巻く環境は依然として厳しい状態が続いております。今後も最優先すべきはお客様と従業員の安全との前提のもと、ソーシャルディスタンスの確保や消毒の徹底等店舗における感染予防策を徹底した上で、行政の指導等を参考にしながら営業を継続していく方針です。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により販売価格が下落したことなどにより、売上高は3,274億7千9百万円(前連結会計年度比7.0%減)、損益面につきましては、家庭需要の高まりから小売店向けの販売が好調に推移したことなどにより、営業利益は126億9百万円(前連結会計年度比17.8%増)、経常利益は129億9千万円(前連結会計年度比17.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は99億6千5百万円(前連結会計年度比53.0%増)となりました。

今後の見通し

ウィズコロナと言われるように、今後は新型コロナウイルス感染症との共生を覚悟しなくてはならないと警鐘を鳴らす専門家も多くおり、企業活動においても、所謂ニューノーマルに対応した経営をすることが求められています。営業や経営の在り方も数年後には元に戻るというよりも、新たな形になっている可能性があります。このような環境下、食品企業としての責務を認識し、お客様に安定して食品関連サービスを提供するとともに、当社の事業を堅実に運営することで食肉業界の維持発展に寄与していきたいと考えております。

食肉等の製造・卸売事業においては、食肉原料の供給網の安定化を目指し、最上流にあたる食肉の生産・調達部門をさらに拡充していきます。

現在国内および海外において食肉の調達事業を進めておりますが、長期的な戦略としてさらに強化していきます。国内販売においては、新規得意先の獲得に加えて、既存得意先へのアプローチを見直し、シェアを高めていきます。海外販売は、環境の変化を見極め、より深く各国市場への浸透を図ります。特に国産牛の輸出については、次の事業の柱として育てていく予定です。

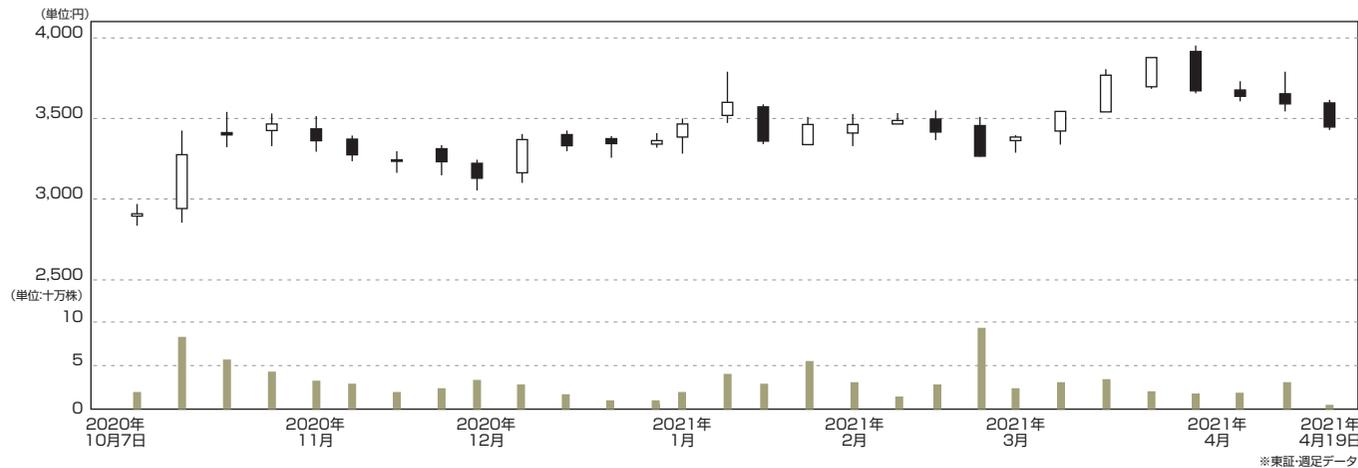
製品事業については、市場の動向に敏感に対応した製品の開発・販促を進めていきます。昨年来、外出や多人数での会食が制限されていることから、外食店でもテイクアウト食品を扱う店舗が増え、スーパーなどでは個食製品の品ぞろえを増やしています。また、家庭で簡単に調理できるキット商品の需要も増えています。新たなニーズに合致した製品をタイムリーに市場に送り出せる体制を整えてまいります。

食肉等の小売事業においては、引き続き既存店活性化や、不採算店閉鎖を継続しつつ、新規ディベロッパーへの出店や、新業態店舗への取り組みを進めてまいります。また、精肉小売と惣菜小売の統合をさらに進め、スケールメリットを活かしたより効率的な運営を図る予定です。

食肉等の外食事業においては、新型コロナウイルスによる影響を最も被る部門であるとの認識のもと、お客様が安心してご利用できるための衛生対策・環境設備を徹底させるとともに、従来からの着実な採算重視の経営を維持していく方針です。

グループ経営の向上については、各企業の事業特性や経営手法の利点を活かしつつ、社会的な経営課題、例えば、食品安全や持続可能な社会に対する要請などについては、横断的な管理を進めることにより、グループ全体のバランスの取れた発展を目指していきます。また、情報技術を使った経営の合理化にも取り組んでいきます。

● 株価の推移と株式の売買高



単位：百万円(配当金を除く)

※東証・適定データ

次期の見通しにつきましては、新型コロナウイルスによる混乱の収束は不透明であり厳しい経営環境が続くものと予想されることから、売上高3,400億円(前年同期比3.8%増)、営業利益127億円(前年同期比0.7%増)、経常利益130億円(前年同期比0.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益80億円(前年同期比19.7%減)を見込んでおります。

中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、経営の基本方針に沿って食肉の総合企業集団を目指しており、食肉を中心とした食品の安定的な供給体制の確立に引き続き取り組んでまいります。具体的には、食肉の生産、調達、加工、流通、及び最終消費者向け販売・サービスという食肉流通の川上領域から川下領域まで一貫したグループ内食肉サプライチェーンの構築を進めます。さらに、国内に留まらず海外における食肉流通機能も拡充することにより、社会情勢の変動への対応力を高めてまいります。

営業成績と財産状況の推移(連結)

期別 区分	第53期 2019年2月期	第54期 2020年2月期	第55期 2021年2月期	第56期見通し 2022年2月期
売上高	338,781	351,972	327,479	340,000
営業利益	10,973	10,703	12,609	12,700
経常利益	11,344	11,085	12,990	13,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,185	6,511	9,965	8,000
総資産	165,062	171,071	172,394	
純資産	86,028	86,348	94,507	
1株当りの年間配当金	56円	60円	64円	70円